

入 選

動物の幸せは当たり前ではない

三年 芦澤未琉来

私の家には四匹の猫がいます。四匹ともみんな「保護ねこ」です。名前は、女の子の、桃子と蘭子、男の子のココとナッツといい四匹全員、元気でかわいい猫で平和に過ごしています。しかし野生下にいたらどうでしょう。

まず、桃子と蘭子は、生後数日程の状態で保護しました。もし保護していなかった場合、両親が近くにいない状態だったので餓死していたかもしれません。たとえ両親がいても、危険はたくさんあります。子猫の一番の天敵といってもかごんではない「カラス」がいるからです。カラスは子猫を高所から落として殺してから食べる頭の良い鳥です。そんなカラスは成猫であつても倒すことは難しいです。カラス以外にも他の動物や車、人間なども猫からすれば全ておそろしいものばかりです。毎日「死」と隣合わせなのです。

ココとナッツの場合も同じようなものです。ココとナッツは、保護団体の方が山に捨てられているのを発見して保護されました。山となると、ヘビやさるなど山に多く住むねこの天敵がいます。ココとナッツは親はいないけど二匹の兄弟がいました。親はいないので、ミルクも水も飲むことができず、脱

水症状や栄養失調になったりしてしまいます。

また、この世界には動物をよく思わない人も存在します。そんな人がねこを見つけてしまうと、餌に毒物を混ぜたり普通に殺したりします。人間も動物にとつて危険な生物でもあります。

ねこは、とてもかわいくて癒しをくれる大切な存在です。そんなねこたちの平均寿命を調べてみるとにしました。調べてみて、その結果におどろきをかくしきれませんでした。家で飼われてる猫は平均十六年ほどでそれ以上生きる子もたくさんいるのに対して、野良猫は長くても三〜五年。その差は十年以上もあるのです。また猫が親離れをする、一人で生きることができるようになるのは生後六カ月くらいです。しかし野生下では生後まもなく天敵に襲われたり、母猫が様々な理由で亡くなってしまいミルクも水も無い状態になり、何も出来ずに生後六カ月を迎える前に命を落としてしまう猫も少なくないと書かれてました。

私が普段かわいがっている猫たちを助けていなかったらと思うと、保護して良かったと思います。私達人間と同じだった一つの命を救えたんだと実感しました。

「動物たちの幸せは当たり前ではない」

私はこの言葉を胸に刻んで今日という日を、四つの小さな尊い命と共に過ごしていきます。